



## アドビ、Adobe After Effects と Adobe Premiere Pro のアップデート とあわせ「Frame.io for Adobe Creative Cloud」をリリース

- Adobe Creative Cloud メンバーに業界をリードするビデオコラボレーションツール「Frame.io」を提供
- この提供により Adobe Premiere Pro と Adobe After Effects はレビューおよび承認機能、さらには「Camera to Cloud」ワークフローまでも搭載する唯一のビデオ制作ツールに
- Adobe After Effects には M1 ネイティブサポートの追加、Adobe Premiere Pro には読み込み・書き出しエクスペリエンスの刷新とヘッダーバーUI を追加

※当資料は、2022 年 4 月 12 日(米国時間)に米国本社から発表された[プレスリリース](#)の抄訳です。

米国カリフォルニア州サンノゼ発：アドビ（Nasdaq: ADBE）（本社：米国カリフォルニア州サンノゼ、以下アドビ）は、4 月 12 日（米国時間）、業界をリードするビデオコラボレーションプラットフォームである Frame.io を数百万にのぼる Adobe Creative Cloud メンバーに提供開始し、Adobe After Effects の M1 ネイティブサポートを含む Adobe After Effects と Adobe Premiere Pro の最新バージョンをリリースしたことを発表しました。Frame.io を Adobe Creative Cloud に組み込んだ「Frame.io for Adobe Creative Cloud」を活用すれば、プロデューサー、代理店、クライアントなどの主要なプロジェクト関係者がクラウド上で映像編集者とシームレスにコラボレーションできるようになります。これは業界初の、ポストプロダクション特化型のレビューおよび承認ワークフローであり、制作者が最終承認を得るまでのプロセスをこれまでになく迅速かつ容易なものにします。かつてないほど大量のコンテンツが作成さ



れ、遠隔地でのチームワークがニューノーマル（新常态）となりつつあるデジタル経済において、ビデオコラボレーションソリューションへの需要は高まってきています。

[Adobe Creative Cloud](#) サブスクリプションの一環として提供されるこの機能が映像制作者にもたらすメリットは以下のとおりです。

- ・ 制作進行中の作品を世界中のレビューアー（人数無制限）と共有できます。
- ・ Adobe Premiere Pro と Adobe After Effects の [タイムラインを離れることなく、レビューアーからコメントや注釈をビデオのフレーム単位で直接取得](#)（英語）できます。
- ・ Frame.io の高速ファイル転送技術により、100GB の Frame.io 専用ストレージを介したメディアの高速アップロードとダウンロードがおこなえます。
- ・ 最大5つのプロジェクトに他のリモートユーザーと同時に取り組むことができます。
- ・ 映像編集者やモーションデザイナーなどの作業担当者にカメラからのフッターを最速で、最も簡単かつ安全に受け渡せる「Camera to Cloud」ワークフローが使用できます。

「Adobe Creative Cloud と Frame.io の組み合わせにより、映像の取り込みから編集、出力までをカバーする、映像制作のための世界で唯一の完結したエンドツーエンドソリューションを提供できるようになりました。これは、未来の映像制作のための強力なクラウドベースプラットフォームの構築に向けた第一歩です」と、アドビのデジタルビデオ&オーディオ製品担当バイスプレジデントのスティーブ ワーナー（Steve Warner）は述べています。

著名な映画制作者はすでに Adobe Premiere Pro と Frame.io の組み合わせによるリモートコラボレーションのメリットを実感しています。米国の映画スタジオ A24 が制作した『[Everything Everywhere All At Once](#)』（現在米国で公開中）では、この2つのソリューションをワークフローに取り入れています。同社の映像編集担当であるポール ロジャース（Paul Rogers）氏は、こう述べています。「Adobe Premiere Pro は素晴らしく、映像編集に他のプログラムを



使うことは考えられません。Frame.io との組み合わせでワークフロー全体が非常に直感的なものとなり、ツールの操作ではなく映画制作に集中することができました」

最近の Adobe Premiere Pro プロジェクトで注目すべきものには、他にも『[After Yang](#)』（A24 配給）、『[The Green Knight](#)』（A24 配給）、アカデミー賞ノミネート作『[Ascension](#)』（MTV Documentary Films 配給）、TV シリーズ『[Atlanta](#)』（FX 放映）などがあります。

## 作業をより速く、より効率化する Adobe After Effects と Adobe Premiere Pro の最新アップデート

Adobe Creative Cloud のビデオアプリケーションの最新リリースも本日より提供します。以下のように、映像制作のプロフェッショナルや SNS 動画制作者が魅力的な作品を作れるように支援する、数々の新機能とワークフローの改良が施されています。

### Adobe After Effects

- Apple [M1 へのネイティブサポート](#)（英語）により、M1 Mac では、Intel 10-Core 搭載の iMac Pro と比較して起動が最大 7 倍高速化し、コンポジションのレンダリングも 2 倍速くなりました。これにより、モーションデザイナーのクリエイティビティの可能性が広がり、これまで以上に高速に反復改善のプロセスを回せるようになりました。
- **Adobe Sensei 搭載の「シーン編集検出」機能**は、編集済みクリップに含まれるシーンの繋ぎ目を自動的に検出し、シーンを個別のレイヤーとして配置したり、編集ポイントにマーカーを作成して、プロジェクトのセットアップを迅速化します。
- 「**拡張ビューア**」では、ドラフト 3D プレビューを有効化した際に、フレームの外側にある 2D および 3D オブジェクトも表示されるようになり、デザインの確認、3D 空間のナビゲート、3D レイヤーの移動がより簡単におこなえます。フレームからはみ出た部分を隠したり、透明度を変更することで、最終的なショットの見た目を確認することも可能です。



- ・ **3D レイヤーの「[ビン化インジケーター](#)」**（英語）は、同じ 3D 空間で一緒にレンダリングされ、互いに交差したり影を落としたりする 3D レイヤーのグループ（ビン）を示すので、Adobe After Effects で 2D・3D の各レイヤーがどのように合成されるのかを視覚的に把握しやすくなります。

## Adobe Premiere Pro

- ・ **読み込み・書き出しエクスペリエンスの刷新とヘッダーバーUI の追加**：先行的にパブリックベータ版に搭載されていたこれらの強化により、コアワークフローのデザインが一新され、より直感的かつビジュアルなものになりました。
  - 新しい[読み込みモード](#)（英語）は、従来のように新規プロジェクトの仕様設定から始まるのではなく、異なる場所に保存されたファイルをブラウズしたりプレビューしながら読み込むファイルを指定していく、よりメディアにフォーカスしたワークフローを提供します。これにより、映像のプロはより速く、初心者ユーザーはより簡単にプロジェクトを始められます。
  - [ヘッダーバー](#)（英語）UI の追加により、読み込み、編集、書き出しの各主要タスクをすばやく切り替えられるようになり、より整理された集中型ナビゲーションが実現しました。
  - 新しい[書き出しモード](#)（英語）では、YouTube、Facebook、Twitter などの人気 SNS に作品をすばやく、直接アップロードできます。エンコーディングなど各 SNS に合わせた推奨書き出し設定から選べるスマートプリセットを搭載しているので準備の手間も省かれ、初心者ユーザーも映像のプロも簡単にコンテンツを投稿できます。
- ・ **Adobe Sensei 搭載の「[オートカラー](#)」**（英語）は、AI を使用して経験の浅いユーザーでも迅速にカラーコレクションをおこなえるようにします。初心者ユーザーにはカ



ラー調整に慣れる環境を提供する一方で、経験豊富なユーザーには肌色や空色の微調整に入る前段までの作業を簡素化して、カラーコレクションが迅速におこなえるようになります。この機能は、2021年の Adobe Premiere Pro パブリックベータ版で初めて「オートトーン」という名称で導入されました。

- ・ **パフォーマンスとワークフローの改善**には、カラー分類によるマーカーの表示/非表示機能、オーディオクリップのリミックス処理の進捗インジケーター、トリムモードにおけるループ再生の改善などが含まれます。
- ・ **Adobe Stock の無料アセットも追加提供**されます。数千もの新しい HD ビデオ映像やモーショングラフィックステンプレートなどにアプリから直接アクセスできるので、際立つビデオが制作できます。

詳しくは、Adobe [Premiere Pro](#) および Adobe [After Effects](#) のブログ記事でご確認ください。

米国時間 2022 年 4 月 23 日～27 日に Las Vegas Convention Center で開催される今年の NAB Show に参加される方はぜひ、アドビと Frame.io のブース（North Hall の#3404 および Central Hall の#C9520）ならびに [100 以上のパートナー出展ブース](#)（英語）に立ち寄り、新機能のご紹介と業界のエキスパートによるプレゼンテーションをお楽しみください。

### 価格と提供開始時期

本日より、Frame.io for Adobe Creative Cloud は、Adobe Premiere Pro と Adobe After Effects にプリインストール提供されます。Adobe Creative Cloud メンバーは、Adobe Premiere Pro または Adobe After Effects から Adobe ID を使って Frame.io にログインすることができます。Adobe Premiere Pro および Adobe After Effects アプリのアップデートは、本日より全世界に段階的におこなわれ、今週末までにはすべての資格あるメンバーに対して提供される予定です。



## ■「アドビ」について

アドビは、「世界を動かすデジタル体験を」をミッションとして、3つのクラウドソリューションで、優れた顧客体験を提供できるよう企業・個人のお客様を支援しています。[Creative Cloud](#)は、写真、デザイン、ビデオ、web、UX などのための 20 以上の デスクトップアプリやモバイルアプリ、サービスを提供しています。

[Document Cloud](#)では、デジタル文書の作成、編集、共有、スキャン、署名が簡単にでき、デバイスに関わらず文書のやり取りと共同作業が安全に行えます。[Experience Cloud](#)は、コンテンツ管理、パーソナライゼーション、データ分析、コマースに対し、顧客ロイヤルティおよび企業の長期的な成功を推進する優れた顧客体験の提供を支援しています。これら製品、サービスの多くで、アドビの人工知能（AI）と機械学習のプラットフォームである [Adobe Sensei](#) を活用しています。

アドビ株式会社は米 Adobe Inc.の日本法人です。日本市場においては、人々の創造性を解放するデジタルトランスフォーメーションを推進するため、「心、おどる、デジタル」というビジョンのもと、心にひびく、社会がつながる、幸せなデジタル社会の実現を目指します。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

###

© 2022 Adobe. All rights reserved. Adobe, the Adobe logo, Adobe Creative Cloud, Adobe After Effects and Adobe Premiere Pro are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.